

ワタリガラスのお面を作ろう 1



タニオリ

ワタリガラスは、日本でよく見かけるハシブトガラスやハシボソガラスよりも一回りほど大きく、全長は 60 センチメートルをこえます。日本ではオオガラスとよばれることもあります。ユーラシア大陸とアメリカ大陸北部に分布し、日本では冬に北海道で観察されます。

ワタリガラスは世界各地の神話に登場しますが、とくにアジア北東部からアメリカ大陸北部の太平洋沿岸部にはワタリガラスが登場する神話が多く伝えられています。



お祭りのときに使う仮面（国立民族学博物館蔵）

制作：財団法人千里文化財団

〒565-0826 吹田市千里万博公園 1-1

TEL 06-6877-8893

FAX 06-6878-3716

助成： 日本財団
The Nippon Foundation

ワタリガラスのお面を作ろう 2

光を盗んだワタリガラス（カナダ先住民の神話）

昔むかし、世界は真っ暗闇でした。

その暗闇の理由は、川の側に住む一人のおじいさんのせいでした。おじいさんは自分の娘の顔が醜いかどうかを知ることが怖くて、箱の中に光を隠していたのです。

ワタリガラスはどうにかして光を盗み出せないかと考えていました。しかし、おじいさんの家は入口や出口がない不思議な家だったので、ワタリガラスは家の中に入ることができませんでした。

ずっと見張っていると、毎日、娘が川へ水を汲みに行くことがわかりました。そこでワタリガラスは木の葉に変身し、娘が川の水を飲むときに、うまく水と一緒に娘の中に入ってしまいました。

そしてワタリガラスは、娘のおなかの中のやわらかい場所までたどり着くと、今度は人間の赤ん坊に変身して、生まれてきました。

ある時、赤ん坊は大声で泣き出し、どうしても泣きやみませんでした。困った娘はおじいさんに、赤ん坊をあやすために、あの箱を開けて欲しいとお願いしました。

おじいさんがしぶしぶ、光が入った箱を開けたとたん、赤ん坊はワタリガラスの姿に戻り、中にあった光をくわえて家の外に飛んで行くと、世界を明るく照らす太陽を作りました。

でも、飛んで行く途中、ワタリガラスは光のいくつかを落としてしまいました。それが、月と星になったのです。

おじいさんは、とてもくやしがりましたが、娘がたいへん美しい顔であることがわかり、とても喜びました。



タニオリ

制作：財団法人千里文化財団

〒565-0826 吹田市千里万博公園 1-1

TEL 06-6877-8893

FAX 06-6878-3716

助成： 日本財団
The Nippon Foundation